

福山和夫稽古日誌

平成31年2月3日（日） 第48回ふれ愛剣道大会

枚方市総合体育館武道場にて。担当団体枚方錬心会により、審判打合せ、プログラム修正その他のお世話になる。試合。個人戦、団体戦、選抜戦とも明剣館の子ども達の頑張りが光る。個々には課題、反省点も散見、悔しい思いをした場面も。。。閉会式の講評で次回担当道場の代表として話をする。気迫のこもった白熱した好試合が続いたこと、つばぜり合いは技を出すか分かれる努力をすること、お世話になった錬心会と審判・試合場係等の方々にお礼。

18:00より「焼肉一番」にて明剣館の新年会。子ども、一般、保護者が集ってにぎやかに楽しい時間を過ごす。中締めの後も皆退出せず情報交換が続く。佳き1日になる。



平成31年2月9日（土） 牧野明剣館

三中にて。自主稽古の中、5・6年生がいなかったなので、子ども達がリーダーの譲り合いに、始めの礼で喝。率先垂範を説く。基本稽古。土曜のいつものように、全員で相手をつくって一般も始めから基本を行う。切り返しの懸かり手と元立ちの正しい方法を説明して進める。その後も留意点を説明しながら数を重ねてじっくりと稽古。休憩をはさんで、地稽古。今日は一般の参加が多く、1回を40秒で回り稽古。短いが初太刀をを大切に作る集中の立ち合い。今日はベトナム帰りの原田さんが初参加の見附さんを伴って参加、佳き稽古になる。

平成31年2月11日（月・祝） 牧野明剣館

渚体育館2Fにて、自主稽古、今日は松田君、井上君、凌君、智稀君、光志君と私の6人での稽古。密度の高い稽古になった。始めの礼。準備体操の後、素振りを指導しながら一緒に行く。注意・指導を行っているときも、できるだけ中段の構えを崩さないように、「休め」にならないよう注意。じっと構えていること自体がいい稽古になるから。基本稽古。全員で相手をつくって並ぶ。今日も切り返しの打ち方、受け方を説明する。切り返し～元立ちの小手に対する応じ技まで数を重ねてじっくりと行う。17日(日)京都尚武館大会に備えて、智稀、光志の2人に低学年のメニューを稽古。切り返し→打ち込み稽古、計40秒。手応えあり、他のメンバーも正しく力強くできるかどうか。休憩を挟んで地稽古。1回4分で総当たり。松田君、井上君とは時間をかけてじっくりと、凌、智稀、光志には時間をかけて指導することができた。普段なかなかできないことをこなせた。小中学生は掛かり稽古、一般は打ち込み稽古。切り返しで締める。

平成31年2月16日（土） 牧野明剣館

三中にて。準備体操、どうしようもなく身体が硬い自分にため息。素振り、指導しつつ一緒に行く。基本稽古。切り返しだけ一般同士、小学生・中学生同士で組んで行う。効率は良いが大人が子ども達の元立ちをしてこそ土曜の稽古。正面打ちからいつもの形に。今日もたっぴりと基本の稽古。地稽古。大人の元立ちに小中学生を掛からせる。並行して審査組は別グループで。続いて、一般組、小中学生組に分かれて回り稽古。一般の切り返しの後、小中学生の掛かり稽古、切り返し。1人少し体調を崩す。大事なことを願う。明日の京都尚武館大会を楽しみにしつつ。

平成31年2月17日（日） 京都尚武館 50周年記念剣道大会

京都府山城総合運動公園体育館にて。第6試合場の審判主任を務める。明剣館は小学生基本錬成、小学生試合錬成団体戦に参加。開会式の後、京都府警剣道特錬生の基本模範演武、練り上げられ鍛錬された稽古を見学する。京都府警の方々、日吉ヶ丘高校生、基本錬

成の各団体の元立ちの先生方に小中学生の選手達が掛かって基本稽古を行う。明剣館の子ども達も伸びのある稽古を引き出して貰っていたらと願う。第6試合場に移動して、6名の審判員の先生方とともに試合錬成の審判を行う。主審と時計係の距離で笛が聞こえづらいのと黄旗がないのが気になってはいたが。。

事件が発生。私はリーグ戦の記録を確認・記入して試合場から目を離れた。その時に、試合終了の笛を時計係が鳴らす主審・副審が気づかず。同時に試合者が場外に出たので、「止め」をかけたのを、時計係は笛に気づいたと思って安心。ところが試合が再開され、すかさず有効打突が出て「勝負あり」。時計係が私に、既に試合時間が過ぎていることを説明。負けた方の監督は抗議に来る。試合審判規則では、試合の開始と終了は主審の宣告による。3人の審判の先生はこれを主張する。これでは監督は納得すまいと私は思う。なぜなら、笛が鳴った後に「止め」をかけながら再開・続行したのは、試合進行上ありえない事象。まだ団体戦の勝敗は決していない、これからどんな展開になるかわからない。私なりの答を胸に、試合を中断して審判長の緒方勝昭先生の元へ行き、事象を説明、処理の相談。期待どおりの指示を受ける「時計に従って下さい」。3人の審判員に伝えて審判から選手に説明、私から両チームの監督に説明して団体戦を再開。

試合審判規則第9条・第39条によって判断・処理、普段から規則に目を通していたのが良かったと思う。しかし、試合場から目を離れたのはいけない、こんな時に限って事件は起こる。大いに反省。

合間に垣間見た明剣館の選手達の試合ぶりに、今回は不満、全てを出し切れずに不完全燃焼を感じる。もう一つ、今日の大会で一貫して唱えられていたこと、「正しい基本の繰り返し」。もう1度原点に戻る必要があると思う。指導者としての反省。

山城総合運動公園は私が京都府に採用された頃できたばかりの公園、行き帰りに、当時一員として建設事業に携わった府道山城総合運動公園城陽線を走ってみる。30数年前を思い出して感慨無量。



きのうの夢に 住んでいられずに あしたの愛を もう待ちきれずに
君はとびだす まだ見ぬ海へと そうさ そいつが青春の旅だ

(青春の旅 1番)

今夜は一般有志稽古会に参加する予定。一日の審判業務を終えた安堵感、山城総合運動公園の駐車場・車の中でしばらく熟睡。

平成31年2月17日(日) 一般有志稽古会

18:45～総合体育館武道場にて。前半、渡邊先生の号令で基本稽古。土山さんともうお一方と3人1組で行う。雑にならぬように、1つ1つを丁寧にと心がけて。休憩をはさんで春の昇段審査に向けての立合を見学。いい稽古をされていると思う。必死さを前面に出している人が、私には気剣体一致が感じられて見映えがしたが。。。地稽古。岡本さん、土山さん、小林さん、森田さん、高松さん、伊波さん、京都の木村さん。多くの方と、たっぷり稽古ができた。終わりの20分ほどの間、七段同士で回り稽古。緊張感と精一杯の攻防でいい稽古をさせてもらえた。

今日は中2の顕士君が参加。学校のテスト前で中学生の参加は顕士1人だけだったので、一般の方々の中で緊張しただろうと思う。でも多くの高段者に稽古をお願いできたのは他で得られない内容で、充実感満載だったと思う。毎月参加して厳しい稽古に耐えて上達することを願う。



平成31年2月23日（土） 西日本高段者稽古会

京都市武道センターにて。家事を済ませて、遅れて稽古に参加。面を着けて、最初に京都の緒方先生にお願いする。過日の京都尚武館でお世話になったこと、模範演武指導で「基本を大切にする」ことを強調されていたこと心に残っている。順番を待つ間もいい見学ができた。自分の持ち味を思い切りぶつけていこうと稽古に望む。続いて大阪の平野先生にお願いする。自分と同年代の先生にお願いする緊迫感。2人の先生のお願いして、自分の技が通じなかったとき、打たれたときに得るものが、ひときわ大きく感じられた。残りの時間を大阪の三浦先生の稽古を見学。スケールの大きな稽古をつくり上げたいと思いつつ。来てよかった実感。島野大洋先生にご挨拶。帰路につこうと車のところに来て、なぜか自分の身体が軽い。おや、竹刀と道具がない。思わず武道センターの入り口に戻る。靴を履くときに一旦置いた、そのままになっている。自分に対して恥ずかしい思いで、竹刀と道具を担いで再度車へ。心地よい疲労感、車の中で30分ほど熟睡。

平成31年2月23日（土） 牧野明剣館

三中にて。京都武道センターから車で三中に直行。今日は小中学生の大半が参加、火曜・木曜の稽古の様相を呈する。にぎやかで稽古の始まるのが楽しみになる。準備体操の後、素振り。振り下ろしきったところが大切であることを強調する。特に低学年が上級生の速さについていくために一番大事なところをとばしていることを指摘。上級生は打ち下ろしたところで下級生を待つ、下級生はたとえ遅れても1本1本打ち切るように指導する。面を着けて基本稽古。小学生、中学生、一般の3人1組になる。小学生⇒中学生、中学生⇔一般の形で行う。途中から、小学生⇒一般、中学生⇔一般の形にする。いずれも、低学年から大人まで、道場にいる全員が存分に稽古をできるようにする。休憩をはさんで地稽古。一般が元立ち、小中学生がかかる形で。その後、一般同士で。1人1人とは短い時間であるが集中の稽古になる。

平成31年2月24日(日) さだ剣修館

さだ小学校にて。日曜夜いつも稽古に参加させていただいていることに感謝。地稽古、回り稽古に加わる。さだの小学生全員、松延さん、川上さん、奥(ご主人・奥様)さんと。自分の攻防ができていないこと、足捌きと攻防・打突のつながり、稽古前の準備など、反省ばかり。